

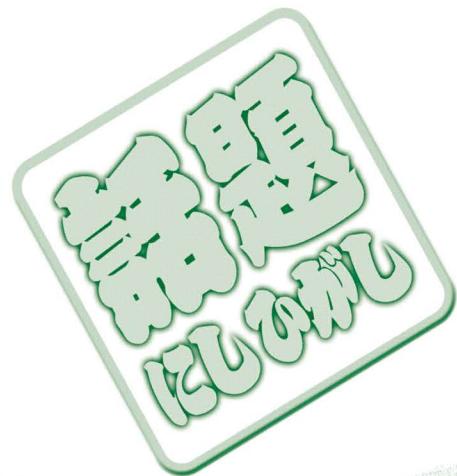
大舞台での活躍を誓う

2月6日（土）に千葉県で開催された「東日本選抜中学生野球選手権大会」に北五選抜チームとして出場した鶴田中学校野球部の選手と、3月12日（土）、13日（日）に福島県で開催された「東北ブロックスポーツ少年団・ミニバスケットボール交歓大会」に出場した鶴田クラブ女子チームの選手が大会出場前の2月3日（水）、役場を訪れ、相川町長に出場報告をしました。

チームとしては約10年ぶりの東北大会出場が決定した鶴田クラブの新井希寧キャプテン（鶴田小6年）は「目標は優勝。全ての試合を全力で頑張る」と決意。また、鶴田中野球部の蒔苗一輝主将は「関東のチームに必ず勝ってきます」と抱負を述べていました。



△鶴田クラブのメンバー（右）と鶴田中野球部の選手（左）



あなたの地区の楽しい催しや出来事などがありましたら、役場総務課まちづくり班（内線264）までお知らせください。

ひんやりリンゴに大興奮

2月17日（水）、水元中央小学校の5年生9人がリンゴ農家の中野光彦さん（妙堂崎）の自宅敷地内で、昨年12月から雪の中で貯蔵している「雪室リンゴ」の掘り出し体験をしました。

体験は、同小のリンゴ生産学習活動の一環として昨年から行われており、この日は葉とらずのサンふじや王林など4種類のリンゴを雪の中からスコップを使って掘り出しました。掘り出したリンゴを試食した児童たちは「蜜がいっぱい」「冷たくて甘くておいしい」と大喜び。中野さんは「雪の中で貯蔵することでリンゴの果肉にハリが出てジューシーな味わいになるんだよ」と児童たちに雪室リンゴのおいしさを教えていました。



△中野さん（中央）と掘り出したリンゴに児童たちは大喜び

スポーツ・文化の功績を讃える

2月21日（日）、「町スポーツ功労賞・スポーツ大賞・スポーツ賞・町体育協会スポーツ奨励賞・町文化奨励賞」の授与式が国際交流会館で開催され、スポーツや文化面で活躍した175人が表彰されました。全国、世界大会で活躍した選手に贈られるスポーツ大賞は、全国中学校柔道大会の女子個人48kg級で優勝した渋谷舞さんや卓球の「JOC ジュニアオリンピックカップ全日本選手権大会カデットの部」で優勝した工藤夢さんら4人が受賞。また、文部科学省の「生涯スポーツ優良団体」に選ばれた町朝野球協会ほか3人に賞状が伝達されました。

今回の受賞者は12ページに掲載しています。



△スポーツ功労賞を受賞した須藤繁喜さんが謝辞を述べました。



△会員が応援する中、互いの吸盤を引っ張り合う熱戦を展開

生産者が農業大学を受講

2月22日（月）～24日（水）、農家の生産技術向上と経営安定を図ることを目的とした「鶴田町農業大学講座」が豊明館で開催されました。

「トマトを活用した地域振興」について講義を行った「よもぎたアシスト株式会社」の小田桐克さんは、いかにトマトが高く売れるかについて考えた末、蓬田村特産の「ベビーベビー」のような収穫したばかりの完熟した赤いトマトが首都圏の人に喜ばれることに目をつけたことを説明。「農作物を売るためには、まずお客様に食べてもらい、ファンを作ることが大切」と述べていました。

このほか22日には、弘前シードル工房「kimori」や津軽藩ねぷた村での視察研修も行われました。

ツルツル頭で町を活性化

2月22日（月）、ツル多はげます会（須郷貞次郎会長）の例会「新春の有多毛」が山田温泉で開催され、兵庫県や青森市からの新会員を含めた過去最多の48人が出席しました。

22人が参加した恒例の吸盤綱引き対決では、頭部に吸盤を付け、行事の「はげよい！」の掛け声で引っ張り合う熱戦が繰り広げられました。決勝では高橋琢司さん（青森市）と渋谷孝行さん（鶴田町）が対決し、渋谷さんが見事優勝しました。

須郷会長は「はげを通して世の中を明るく照らし、町活性化に貢献したい」と抱負を述べ、第2回吸盤綱引き全国大会や、会の新たな活動としてはげ川柳大会を開催することを発表しました。



△3日間開催された各講義とも多くの方が受講しました。